

生懸命応援していただいて教員になったとすれば、今度は長井市に恩返しするよという先生が出てくるかと思うんですね。そういうことも含めて、ぜひご支援をいただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○平 進介議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

金子豊美議員の質問

○平 進介議長 次に、順位3番、議席番号6番、金子豊美議員。

(6番金子豊美議員登壇)

○6番 金子豊美議員 過去最大と言われる台風10号の襲来、9月、10月は台風の季節と言われております。海水温度が2度上昇する異常気象の中での台風の恐ろしさを、ここ数日の報道で感じています。被害が最小限に収まることを祈っております。

今年の8月、9月は、例年とは異なり、静かで寂しい季節となりました。笛、太鼓の音に合わせ勇壮に舞う黒獅子舞。豊年満作、家内安全、身体堅固、交通安全、無病息災など様々な思いを込め、黒獅子舞に熱中する人々の姿。毎年、伝統文化の一つとして、また人々の心の支えとして当然のごとく行われてきた年中行事。今年は休むことしかできなかった、その悔しきや無

念さを思うと心が痛みます。一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息し、来年はにぎやかな祭り、勇壮な獅子舞が復活することを期待しております。

さて、本来なら、昨日6日は東京オリンピック・パラリンピックのパラリンピック閉会式が行われ、一連の東京大会が、多くの選手、スタッフ、大会関係者、長井市民、国民はじめ世界の人々の心に残る大会として、盛会裏のうちに終了するはずでした。しかしながら、新型コロナウイルスにより大会が延期され、今後の開催そのものを心配する声も多く聞かれます。新しい生活様式の中で来年開催される予定の東京オリンピック・パラリンピックが成功することを期待してるところであります。

今日は「寒露」、「白露」と書いて「はくろ」ともいいますが、二十四節気の一つで、これから秋分までの期間をいいます。白露とは、その名のとおり白い露ができる時期のこと。日中はまだまだ暑さが続く時期ですが、朝晩は涼しい日が増え、その温度差で露ができやすくなっていくとのことです。白露の時期は、セキレイが鳴き、ツバメが去っていく。草花は、キク、センニチコウ、モミジアオイ、ヤマラッキョウ、食べ物、里芋、シメジ、マイタケ、サンマ、栗と言われています。新型コロナウイルス感染症対策が日々行われている中、日本の伝統的な風習、食生活を振り返りながら、体調管理を万全にしてこの9月議会を務めさせていただきたいと思っております。

一般質問をさせていただきます。項目は2つ、質問事項は4つです。

初めに、成人式の開催について質問をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら8月15日に開催された長井市成人式、市民からは中止や延期の要望も数多くあり、担当者も対応に苦慮されたとお聞きしております。結

果は、テレビや新聞などを通して全国ニュースで報道されるなど、新しい生活様式の中での成人式の実施について一石を投じた事業として評価されたと感じております。

当日の様子を長井市のホームページから抜粋してみますと、「本年度の成人式は、全国的に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策が求められる中、新成人一人ひとりがしっかりと「成人」という大きな節目を迎えることを受け止め、これからのウィズコロナ時代に立ち向かう大切な機会として、新しい生活様式を踏まえた「オンライン形式」での開催となりました。式典会場の様子はY o u T u b eでライブ配信されたほか、新成人は、オンラインツール「Z o o m」を活用し、式典会場のモニターに映し出され、オンラインで会場と双方向から参加する式となりました。式典では市民憲章の唱和や成人証書の授与が執り行われ、市長は「このコロナの時代にも逞しく歩むだけの力がふんだんに備わっている新成人の皆さんのこれからの人生、大いなる志を持ち、輝かしい未来を拓いてほしい」と激励の言葉を贈りました。また、式典終了後は、「交流の部」としてオンラインツール「R e m o」を活用したオンライン交流会が開催され、成人者をはじめ、当時の担任教師などの関係者が、オンライン上で思い出話や近況報告を行い、新しい生活様式を踏まえた交流が行われました。」と掲載されておりました。

初めに、全国的に成人式の中止や延期、再延期をする自治体が多くある中、新しい生活様式を踏まえて開催された今回の成人式について、実施した成果と今後の課題について、市長の見解をお伺いします。

次に、長井市平和都市宣言が平成6年9月20日に議決されております。宣言の内容については、次のように宣言されております。「市制施行40周年を機に、平和の尊さを再認識するとともに、地球上から核兵器と戦争がなくなることを

を願い、本市は次のように宣言する。長井市平和都市宣言。緑豊かな美しい自然の中で、うるおいのある健康で生き生きとした毎日を送ることは、私たち市民の共通の願いです。私たちは世界唯一の被爆国であり平和憲法をもつ国の国民として、地球から一日も早く核兵器をなくし、戦争のない平和な世界が実現するよう強く訴えます。長井市は、未来に向かって、平和な社会を築いていくことを誓い、ここに平和都市を宣言します。」というものです。

8月6日に広島、8月9日には長崎に原子爆弾が投下され、多くの方々が犠牲になり、それぞれ原爆の日として追悼式典が行われています。そして、今年の8月15日は75回目の終戦記念日を迎えました。さきの大戦で、長井市では834名の貴い命が奪われました。長井市では、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら10月11日に長井市戦没者追悼式を、リニューアルされた長井市民文化会館大ホールで開催する予定になっております。多くの犠牲者を生んだ戦争の悲惨さを、二度と同じ過ちを起こさないよう後世に伝えていくことが、今生きている私たちの役目の一つではないかと考えます。特に、新成人には平和の尊さを再認識していただき、戦争のない平和な社会を築いていってほしいと思います。8月15日の成人式、成人を祝うだけではなく、過去を振り返りながら輝く未来を開く、新成人にはそのような期待も込められているのではないかと思います。

以上のことから、成人式については、平和都市宣言を行っている長井市として今後も8月15日の終戦記念日に開催することが大切だと考えますが、市長の見解をお伺いいたします。

次に、河川内樹木、支障木の伐採についてお伺いいたします。

近年、地球温暖化による異常気象の中、昨年10月の台風の襲来や今年7月の集中豪雨、53年ぶりの最上川の氾濫など、多くの自然災害が全

国各地で発生しております。テレビ等で流される映像を見ていると、流木等による被害が多く見られます。当市では、最上川、置賜白川、置賜野川、草岡川の河川内にも大きく伸びた樹木が多く見られ、このたびの7月集中豪雨時にも、市民が心配している姿、声を多く聞きました。当市議会一般質問でも、これまで幾人かの議員が質問をされております。予断を許さず襲ってくる台風や集中豪雨から市民を守り、安全で安心して暮らせるまちづくりのためにも、河川内樹木の伐採について当局の考えをお伺いします。

最近の取組について現状を振り返りますと、初めに、平成31年度の伐採について、国土交通省からのお知らせ、河川内樹木の伐採を行いますというチラシが配布されました。伐採の目的として、1つ目は、河川内に繁茂している樹木は、洪水時に水の流れを阻害したり、流出して橋梁部に堆積して越水被害の原因になったりする。2つ目として、近年、全国各地においてこれまでに経験したことのない豪雨災害が頻発しており、最上川上流管内においても、平成26年7月に南陽市を流れる吉野川の流木等による河道閉鎖が記憶に新しい。そして3つ目として、今回、長井市から河川管理者に対し、河川内の民地に繁茂している樹木の伐採を実施していただくよう要望があったことから、樹木の伐採を実施するという目的により実施されたものであります。

平成31年度は、11月頃から伐採を開始することでした。最上川エリアの場所は平成31年度、最上川左岸沿いにある市民運動広場（致芳河川敷地スポーツ公園）北側、令和2年度から令和10年度については最上川長井橋上流まで、置賜野川については平泉橋までの区間で予定されているとのことでした。

取組方法として、最上川官民連携プラットフォーム（長井地区）を設立し、官民双方にメリットのある全国初のビジネスモデルとして検討

を行い、そのプラットフォームの意見を踏まえ、公募型河道内樹木伐採モデル事業として実施されています。モデル事業の概要としては、山形県及び山形河川国道事務所では、最上川上流において河川の流下能力の阻害要因となっている支障木について、河川の適切な維持管理に向け公募伐採を実施することで河川管理費を削減し、支障木を資源として有効活用を図っているが、予算上の制約もあり、継続性に苦慮している状況である。他方、バイオマス発電、ボイラーなど民間企業等による樹木の利活用ニーズがますます高くなっており、長期的、安定的に樹木を供給する仕組みの一つとして民間企業のノウハウを最大限活用し、河道内に繁茂している支障木を効率的かつ効果的に伐採、利活用するために最上川官民連携プラットフォームを設立し、検討してきたとのことでした。

公募の結果、株式会社1社、有限会社1社の計2社に伐採をしていただくことになりました。伐採期間予定は、平成31年2月14日から令和9年3月31日までとなっております。また、公募型モデル事業とは別に、今年の冬場でありますが、県直轄の事業として、置賜野川あかしあ橋下流右岸の一部と平泉橋の下流の一部について樹木の伐採を行っております。このように、少しずつではありますが、河川内樹木の伐採については事業が進められているのが現状であります。

この項目1つ目の質問ですが、これまで申し上げましたように、少しずつ事業が進められているわけでありますが、近年の台風の襲来や集中豪雨など自然災害の状況を踏まえてみますと、おおよそ10年の伐採計画では市民が安心して暮らせる状況ではないと思われれます。公募型河道内樹木伐採モデル事業の趣旨は十分分かりますが、自然災害に対する対応としては時間がかかり過ぎるというふうに感じております。この公募型河道内樹木伐採モデル事業に対する市長の

見解をお伺いいたします。

次に、民地に繁茂した樹木の伐採も必要ですが、河川内の中州も含め、橋の高さより超える樹木も多く繁茂しているのが現状であります。モデル事業も大切だと思いますが、市民の命を守り、市民が安全で安心な暮らしができるためにも、この河川内樹木の伐採は早急に進めるべき課題と考えます。国や県に対して、直轄で進められる部分については今後も強く要望していきべきだと思いますが、市長の考えをお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 金子豊美議員から、大きく2点、4つのご質問あるいはご提言をいただきましたので、順次お答え申し上げます。

まず最初の成人式の開催についてでございますけれども、議員からは、全国的に成人式の中止や延期、再延期をする自治体が多くある中、新しい生活様式を踏まえて開催された今回の成人式について、実施した成果と今後の課題についてどのように評価しているかというご質問をいただきました。

この件につきましては、遠藤副市長、また土屋教育長をはじめ、市の幹部職員、また担当課の職員といろいろ協議をしながら進めてまいりました。そういった、特に副市長や教育長の所見なども踏まえて申し上げたいというふうに思います。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、金子議員からも詳しくお話ございましたけれども、経済のあり方や産業構造、また雇用等々、全ての領域で、これまで私たち人類が作り上げてきた常識から転換を一種求められるような、そういう状況になっているという、同じ認識でございます。21世紀はウイルスとの闘いであるとも言われておりますけれども、たとえ新型コ

ロナウイルスが終息した後も、新たな危機に備え、絶えず変化していかなければならないことが予想されますし、かつて100年前のスペイン風邪が、世界的にこれもパンデミックになって、日本でも少なくない方がお亡くなりになったわけでございますが、その当時と比べますと、もう今はグローバリズムで世界が本当につながっておりますので、今後もこういったウイルス等々の感染というのは繰り返しあるんだろうなというふうに考えております。この先の見えない時代の中で我々が生きてゆき、社会をつくり上げていかなければならないのは、特にこれから未来を担っていただく成人の方であるという認識でございました。

長井市では、成人式を通じて、パンデミックをきっかけとした激変する先の見えない社会をどう受け止め、どう生きていくのか、その姿勢を新成人に伝える責任があるのではないかと、私たちがいろいろ意見交換をして共通の認識に達したところであります。確かに、もしかしたら1年、2年ぐらい、じっと隠れていれば通り過ぎると、そういうことを考える人もいるんでしょうけれども、特に若い人たちにはそういった考えになってもらいたくないなということで、そのことを考えていただけるような成人式にしなきゃいけないんじゃないかと考えておりました。そのために、集い、親睦を深める機会とする式から、人生の先輩である私たちが今の状況を正面から受け止める大切さを伝え、共に未来を考える式典に変えることが意義ある成人式じゃないかという考え方でございました。

今回、3部構成で成人式、一つのリモートで、オンラインでさせていただきましたので、見ていただくということで3部構成でこの成人式を行ったわけですが、1部でのビデオメッセージでは、長井市の現在の状況などを伝えるとともに、私、市長をはじめ市民からの激励を伝えたいと。2部では、式典の部でございますけれ

ども、新成人に限った参加ではなく、来賓の皆様やら、あるいはサプライズでお願いした長井市出身の梅津碧さん、ソプラノ歌手ということでございますが、市民歌と歌の贈物を加えた市民全員で祝福する会にしよう。第3分の集いでは、今できるやり方として、長井の物産を贈りながら、Remoを使ったオンライン飲み会という新たな形の懇親会を開いたところでした。

これらの式は、これからの新しい成人式の可能性を幾つか見いだすことができた式ではなかったかなと思っております。

1つ目は、ユーチューブ、Zoom、Remoといった新しい通信手段を駆使した式であったということでございます。これは長井市が目指す未来の新技术をフルに活用した姿を示す大きな機会となるということ。これまでの、長井市に戻ってきた若者による成人式から、日本や世界を結び、また日本や世界で活躍する人々を交えた成人式や集いの会に変えることは、長井市が目指すSociety 5.0の実現に向けたメッセージにもなるのではないかと。

2つ目は、ビデオメッセージを通して、長井市の過去、今、未来を改めて確かめ合う機会となったことでございます。取材を通じた、市民がじかに長井市への思いを確かめ、また若者にメッセージを送る活動は、市民の郷土意識や若者を市に呼び込もうとする意識の醸成につながるのではないかと考えました。

3つ目は、形骸化した式から脱却し、大きく変化する社会を、世界を見据え、その年々にメッセージ性の強い式への転換を図る機会となったことでございます。新成人代表の横山大晟さんの言葉をしっかり受け止めていきたいと思っております。「オンライン成人式の実施に向け、様々なことをご教授いただき、またご尽力賜りまして、本当にありがとうございました。ウィズコロナの在り方を真剣に模索し実行した、よい人生の勉強になりました。」これ、中略とい

うことで。「これからの東京での生活も模索と実行を繰り返しながら頑張っていきたいと思えます。」という言葉をいただいたところです。

今後の課題として感じたことですが、成人式の意義には、新成人を励ますだけでなく、数年後、多くの若者が長井市に戻り、地域を支える力になりたいと強い思いを持ってもらうきっかけにすることだと考えます。それには、コロナウイルスの中で日々頑張っている新成人のみならず、多くの若者に対して、長井市民が長井の心に根差した深く広い心で受け止め、受け入れ、長井市が目指すこれからの姿を共に共有しなければならない、このための長井市で暮らす人々の合意形成は極めて大切だと考えるところです。そのためにも式典挙行的ための準備とはせず、準備期間を十分に取った取組に変えていくことは今後極めて重要ではないかというふうに考えているところです。

2つ目の、8月15日の成人式ということは、議員からもおっしゃっていただきましたように、成人を祝うだけでなく、過去を振り返りながら輝く未来を開く、新成人はそのような期待も込められているのではないかと。以上のことから、成人式については、平和都市宣言を行っている長井市として今後も8月15日の終戦記念日に開設することが大切と考えるが市長の見解はということでございます。

これにつきましては、議員おっしゃるとおり、地球から核兵器をなくし、戦争のない平和な世界を実現することは、私たち長井市民のみならず全世界共通の願いでございます。終戦から75年たちますけれども、いまだに後遺症で苦しんでおられる方が大勢いらっしゃいます。今日の平和と豊かさは先人たちの貴い犠牲の上にあることを肝に銘じ、戦争の惨禍を二度と繰り返さないため、後世に語り継いでいくことが私たちの使命でもございます。

長井市の成人式につきましては、お盆の期間

ということと、長井市出身の皆さんが帰省することや成人者が一番参加しやすいなどのことから、例年8月15日の終戦記念日と同じ日の開催となっております。六、七年ほど前にいろいろな座談会で成人者の親御さんのほうから、特に女性の親御さんのほうから、東南置賜のようにゴールデンウイークのほうがいいんじゃないかと。というのは、8月の終戦記念日は確かにいいんですが、着物でやっぱり写真を撮ってあげたいと。晴れ着、晴れの姿の写真撮るにはやっぱり真夏よりも5月のほうが良いということでの意見を複数いただきました、白鷹町とか小国町、飯豊町の町長さん方ともお話しして、同じく成人式をお盆にやっていますので、ちょっとアンケート調査をやってみようということで、私どもも5年ぐらい続けてやったんですが、成人者のほうはお盆のほうが良いというのが大多数の意見でございまして、それらについては、ほかの西置賜の町のほうも大体同じような成人者の考え方のようですので、私どもとしては、このまま8月15日に行っていくべきじゃないかなというふうに思っております。

なお、新成人の皆さんにも、戦争の恐怖や悲惨さをもう一度見詰め直し、平和な社会の構築にご尽力いただくことを期待したいというふうに思います。

続きまして、2点目の河川内樹木、支障木の伐採について、2つご質問、ご提言をいただきました。お答え申し上げます。

議員からは、おおよそ10年の伐採計画では市民が安心して暮らせる状況ではないのではないかと、公募型河道内樹木伐採モデル事業は自然災害の対応としては時間がかかり過ぎると思うが、考え方はどうですかということですが、初めに、7月28日の豪雨は、東北地方に停滞していた梅雨前線に日本海側から流れ込んだ暖かく湿った空気が朝日連峰にぶつかって雨雲が発達しまして、長井市の24時間降雨量203.0ミリと

いう観測史上最大の降雨量を記録しました。特に最上川中流域では、降雨による水位の上昇と支流からの流入が重なり、大石田町や大蔵村など、蛇行部と支流の合流地点の重なった部分に浸水が広がった大変な被害になったわけです。今回の最上川の氾濫は、延長229キロ、県内最大河川のドッグレッグやボトルネック箇所脆弱さを露呈した水害であったと言えます。私ども置賜地域は最上川上流域という区域、区分になるわけですが、特に今回は中流域が、村山地域、最上地域が大きな被害があったということでございます。

最上川官民連携プラットフォームは、治水、そして景観の観点から、支障木の伐採規模の拡大や継続性、さらには伐採コストの縮減を目的といたしまして、官民、地域が連携した取組である山形モデルという、今回のこの長井エリアにおいて全国初の取組として昨年度より事業に着手されたのが、今回の議員おっしゃるモデル事業でございます。

事業の概要については、金子議員おっしゃるとおりでございます。昨年度は、最上川左岸流域の成田の河川敷と最上川河川緑地公園南側のおよそ5万8,000平米、そして山形県単独で置賜野川あかしあ橋下流の低水敷、これ約600メートルの長さ、そして面積については2万6,000平米と、平泉橋下流地点の100メートルの区域約6,000平米の伐採が行われました。伐採期間は令和元年2月14日から令和9年3月31日の8年間になっておりまして、金子議員からは時間かかり過ぎるのではないかというご意見でございまして、支障木の伐採については、樹木の落葉時期と河川の水位が安定する11月頃からの着手になること、また伐採範囲も、両岸の高水敷に関わらず中州や低水敷など広範囲に、そして河川延長全体に及ぶことを鑑みたときに、全国初のモデルとして取組が始まったことは、これは評価する一方で、二、三年で完結する事

業ではないと感じております。

昨今の集中豪雨でも、橋脚に引っかかった流木がダムサイトになって一瞬にして堤防を越流する、いわゆる河道閉塞が大きな被害をもたらす状況でございます。山形県では、河川流下能力向上緊急対策計画を平成31年3月に策定しており、モデル事業をそういった計画と並行して進めることにより少しでも早い対応が図られるように、国土交通省及び山形県には強く要望していきたいと考えております。

なお、議員からは、モデル事業も大切だが、市民が安全で安心な暮らしができるためにも、国や県に対して直轄で進められる部分については今後も強く要望していくべきではないかということですが、全くそのとおりでございますが、ご承知のとおり、特に今回も台風10号で大変な被害が出てるようでございますが、九州から四国あるいは中国地方の一部で大変頻繁に水害等が頻発しております。また、地震、地殻活動も大きく、最近ではやはり熊本地震などから、私ども市町村役場の緊急支援事業なども国で取り組んだということですが、やはり、今回のコロナの対策は別として、日本の財政的な面でいえば、特に高齢者が大変増加しておりまして、その医療費とか介護、そういった費用が増大してる中で、これから少子化として子供たちに多くの予算をかけるべきだということもあって、これは民主党政権から一つのきっかけとなって、とにかく公共事業が大幅に削られてしまいました。私どもはずっと訴えてきたわけですが、今回に限らず、私ども、特に最上川上流域の治水の期成同盟会の会長が長井市になっておりますので、国土交通省のほうに毎年何度も出向いて、幹部の職員、局長クラスと意見交換をしたり、あとは同じ同盟会の会長同士で国会議員のほうに要望活動などを行ってまいりましたけれども、正直なところ、今年度で終わりでございましたけれども、緊急防災対策と

いうことで国土強靱化の予算を3年間つけていただいたと、これは画期的だったと思うんですが、それでもこういった支障木までお金が回ってこない。それぐらい予算はこの20年間で半分以下に減っておりますので、なかなか大変だと。

私ども、市民の皆様が一番多い要望は、やっぱり生活道路とか河川、水路等々の、そういう生活環境の改善が一番多いわけですが、そういった予算は全くつかないというのが現状です。そういった中で、私ども長井市の場合は、こういったことでモデル事業で先駆的な取組で、単年度じゃなくて3年間続けてやっていただけるということでございますので、やっぱりここでしっかりと実績を出して、我々がモデル事業で進めるからということで、全国のモデルケースになるようなそういった取組をしなきゃいけないかと思っております。県も予算がございません。確かに一時的にはいろいろお願いできますけれども、やっぱり順番になりますので、本当に危険だから、いつ襲われるか分かんないからという、我々も本当に責任があるわけですが、残念ながら、自分たち、我々市ではできる部分というのは本当に限られておりますし、県も国も予算がなかなかつかないという状況で、これから私ども市町村長も頑張ってますが、市議会議長会とか、やっぱり地方六団体連携して国に対していろいろ声を上げていかなきゃいけないと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○平 進介議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 4つの項目についてそれぞれご答弁いただいたところであります。まず最初に、支障木関係のほうなんですけど、市長も当然、あかしあ橋、野川橋、何回か通っておるわけで御存じだと思うんですが、やはり今、中州の部分の繁茂が目立ってきてるという部分などが特にあるものですから、やはり河川敷内の樹木というのは根も浅いということもお聞きし

てますので、一旦そういった災害が起きたときにやはり不安だというのは市民の共通した気持ちだというふうに感じております。予算等いろいろな大変な部分も市長から、今、お話お聞きした部分で分かりますけども、やはりできる機会を通じてお願いしていただくというようなことと、市議会に対応されるものは市議会でもいろいろ対応していかないといけないかなと、今、考えさせていただいたところでありました。

市長会や置賜のそういった治水関係の団体などを通じながら、今後も、ぜひ機会あるごとに陳情等よろしくお願い申し上げたいというふうに思ったところでもあります。

それから、成人式でありますけども、これについては、私ももう40年ですか、成人式終わってから、なるわけですが、ずっと8月15日で今までやってきたという経過があります。まして、実行委員会をつくって成人の手でできるものは実行委員会の中でというふうなことで、市全体で取り組みながらやってきたという経過もあるもんですから、若い人たちの、未来に向ける未知の力を引き出しながら、やはり平和のことも含めて今後も開催して、15日を基点に開催していただければなというふうに思っているところでもあります。

今日、この2つの項目に集中して質問させていただいたわけなんですありますが、やはり平和都市宣言についても、二十数年前ですか、宣言して、私も議員になって、今回初めてその件に触れさせていただいたところでもあります。このちょうど玄関のところに都市宣言の看板もあるわけですので、その辺、これから新庁舎移転になったときに、どのような形で持っていくのか、あるいはどんな形で平和都市宣言を表していくのか分かりませんが、その辺についても、今後、ご検討いただければなというふうに思ったところですが、市長、いかがでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず最初に、支障木等々の話ですが、例えば私どもは期成同盟会として、これは東北の治水関係で要望してます。ですから、東北6県の代表の方などと一緒に、地元の国会議員、財務省、国土交通省等と要望しているわけでございますけども、それとは別に山形県の市長会、ですから、市議会の場合ですと山形県市議会議長会、議長というのは13市の議長ですけども、それぞれ議会の皆様の、いわゆる意見書とか請願という形でありますよね。今回も出ておりますけども。そういった形で、例えば国土交通省とか財務省とかに意見書を出すと、要望書を出すというやり方は当然できるわけですね。地方6団体というのは、全国知事会と、それから全国都道府県議会議長会、それから全国市長会と全国市議会議長会、あと全国町村議会議長会と全国町村会、この6つが6団体ですよ。それで、安倍政権になっていろいろ批判もあるんですが、そのときに初めて、6団体の意見交換の場を設けてもらったんですね。ですから、国に対して、直接、我々市議会あるいは市長会の代表が意見を言う。そういった中で、全国市議会議長会でも東北から出てると思うんですが、頻発する災害に対して、しっかりと措置をなさいと、必要な予算を確保しなさいと言っているわけですが、まだまだ、その力が足りないわけですよ。特に西日本はすごい活動されるんですが、東北はみんなおとなしいと。山形県は来ないんですよ、市長さんとか町長さんが。なもんですから、私なんかよく行って、いつも私しかいなかったりとか、道路もそうなんですよね、来ないんですよ。でも、やっぱり声を出していかないといけないですね、やっぱり西日本はすごいですから。その辺などをやっぱり私だけじゃなくて、同じ立場ですんで、一緒になってそれを実現していくというようなことで、お力添えをお願いしたいというふうに思います。

あと、平和都市宣言をされて、そういった市

制40年を記念して、看板も立てて、そういう宣言をしたと。これをどういうふうに、これから次世代につないでいくかということですが、これは私どもも、長井市も、例えば広島市が会長となっている原水爆禁止の、そういった同盟とか、あとそういったところには私も加入して、同じ思いでやってるわけですが、なかなか今、平和都市宣言ということでのいろんなセミナーとかってというのは、どこの市町村も、今、行っておりませんので、やっぱり何かの機会を見て、今年は終戦75年ということでございますけれども、そういったことも重要なのではないのかなというふうに思っております。

なお、看板については、どうするかについては、今後の検討だと思っておりますが、今日、午前中の一般質問でもございましたように、長井駅前通りの街路事業、県道ですので、それを進めていただくようお願いして、県のほうにも要望を以前からしておりますし、改めてお願いしなきゃいけないんですが、駅前のところは駅前広場ということで、県の都市計画の中で、長井市の部分もうたわれてますが、広場というふうになっておりますが、そこをどういうふうに、勝手に看板というのはなかなか難しいのかなと思っておりますので、今後、今回、議案にもなってます、市道長井駅前線でしたか、そちらの採択いただきながら、そういったところのレイアウトもしっかり議会の皆様にもご覧いただいて、いろいろご助言などもいただければと思います。今後の検討材料だと思っておりますのでございます。

○平 進介議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 ぜひご検討いただければというふうに思います。大変暑い中、ご答弁いただきどうもありがとうございます。少し時間ありますけれども、私の質問、これで終了させていただきます。ご清聴ありがとうございます。

鈴木富美子議員の質問

○平 進介議長 次に、順位4番、議席番号10番、鈴木富美子議員。

(10番鈴木富美子議員登壇)

○10番 鈴木富美子議員 清和長井の鈴木富美子です。暑さもピークになってまいりましたが、皆さん、しっかりと耳を開いて聞いていただければと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大によりまして、新しい生活様式が少しずつ浸透しているようですが、いまだに過剰に神経を使う場面も多いのではないかと考えております。

ニュースや新聞を見ておきますと、東京から帰郷した方々に対する嫌がらせや県外の方々を差別するような事案があったとの報道を目にすることがあります。実際に肩身の狭い思いをされている方がいらっしゃるのも事実です。何がよくて何が悪いというわけではないと思いますが、風評というものは、ウイルス感染症と併せて怖いものだとつくづく実感したところでした。新型コロナウイルス感染症をきちんと理解し、その上でどのように生活していくのか、正確な情報をしっかりと市民に分かりやすく伝えていくことが必要なのではないのでしょうか。

9月定例会は2項目について質問をさせていただきます。

初めに、地域おこし協力隊について質問をいたします。

長井市では、現在、必要としている部署、目的に応じて、様々な地域からの地域おこし協力隊が活躍していると思いますが、改めて、何名の方がどのような仕事をしているのか、地域づくり推進課長にお聞きしたい思います。